

# 令和5年度 益子特別支援学校 学校評価 シート

努力点	(1) 自立と社会参加に向け、生涯にわたって学び続ける力の育成を見据え、「自ら考えて行動する力を育む」取組を進める。【重点】 (2) 小学部・中学部・高等部一貫した魅力ある指導内容と指導方法の工夫に努める。 (3) 安全安心に学べる学校環境づくりと、実践的な防災安全教育に努める。 (4) 保護者や関係機関及び地域との連携・協働を進め、心の通い合う「地域とともにある学校」づくりに努める。 (5) 教職員相互の信頼と協力体制をもって職務に臨み、明るく意欲あふれた学校づくりに努める。
-----	---

評価基準： A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できていない D:達成できていない

学部・分掌部	評価項目(達成目標)	重点目標(努力点)	評価	考察	次年度への改善策
小学部	児童が主体的に行動できるような指導・支援を実践する。	(1)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しの学習で習得した児童は、内容をステップアップして自分で考えて行動する場面を設定することができた。</li> <li>・児童が自分の気持ちを表現したり相手の意見を受け入れたりすることができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、児童が考えて行動できるような学習場面を設定し言葉かけや発問を工夫する。</li> </ul>
	児童の成長や今後の進路を見据えて、指導内容や指導方法を工夫する。	(2)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や関係機関と連携し、実態に合った指導の工夫ができた。</li> <li>・学業指導応援チーム派遣事業で高等部の清掃について知ることができ指導に生かせるようになった。</li> <li>・教科等係会では他学部との系統性を確認する機会となった。指導に生かせるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小→中→高の流れを考え、継続して取り組めるとよい。また、学部内で共通した見解で指導ができるとよい。学習指導部と連携が必要である。</li> </ul>
中学部	学校生活全般の中で社会生活に必要なマナーを身につけるための支援の工夫に努める。	(1)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間の共通理解のもとに、学級や学年、作業班で効果的な指導をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導を継続するだけでなく、高等部への流れも意識した指導を検討し、生徒が自分から具体的に行動できる支援につなげていく。</li> </ul>
	生徒が自発的に考えて行動する力を育むための支援に努める。	(1)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を自覚できるよう、学級や学習集団の中での役割分担を適切に行い、指導に生かすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が意欲的に取り組める学習内容や教材を工夫し、授業を行う。</li> </ul>
高等部	生徒が自発的、意欲的に取り組む授業作りのため、目標や学習内容を整理する。	(1)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容によっては、学年全体と学級に指導形態を変えて効果的に指導できるようにした。</li> <li>・実態に合わせたワークシートを作成し、理解の確認ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も生徒の実態に応じて学習内容を修正しながら授業を行っていく。</li> <li>・生徒が自ら気づき行動できるような場面を設定し、授業を展開していく。</li> <li>・生徒の反応を見ながら言葉かけを行い、主体的に取り組むきっかけをつくる。</li> <li>・(小学生との)昼休み交流を次年度も実施する。</li> </ul>
	社会生活に必要なマナーを身につける支援を実践する。	(1)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産現実習の反省・課題を踏まえて態度面を指導することができた。</li> <li>・報告する機会を増やすことで丁寧な言葉遣いで話す指導が行えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・態度については繰り返し指導を行い、生徒が自発的にできるよう支援していく。また教員間で共通理解を図り、授業や個別の支援を行う。</li> <li>・教員の生徒に対する言葉かけ等についても共通理解を図り指導に当たる。</li> </ul>
教務部	教職員間の共通理解及び連絡調整に努め、児童生徒の自立と社会参加に向けた円滑な教育活動を進める。	(1)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの5類移行後は、徐々に感染症対策を緩和し、儀式や行事の内容を充実させることができた。</li> <li>・チームズ等を活用して情報共有を行い、共通理解を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き感染症対策が必要な部分は継続しつつ、状況に応じてさらに内容の充実を図っていく。</li> <li>・情報の発信の仕方を工夫することで、さらに情報の共有が確実になると思われる。ホームページの充実を図る。</li> </ul>
	各業務の実施時期や状況に応じて、課題を検討・改善しながら職務にあたる。	(5)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムについては、各係が連携しながら取り組んだが、システムの不具合など対応しなければならない業務も多く、特に情報系の負担が大きくなってしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もシステム運用上の課題が出てくるのが予想され、業務の適切な分担や工夫が必要となる。教務部内での係分担を検討する。</li> </ul>

学部・分掌部	評価項目(達成目標)	重点目標(努力点)	評価	考察	次年度への改善策
学習指導部	「自ら考えて行動する力」を育むために、主体的な活動を取り入れた授業実践に努める。	(1)	B	・主体的な活動を取り入れた授業を計画し、実践に努めた。おおむね計画の中に主体的な活動を入れていたが改善が必要な計画もあった。学習グループ内での单元ごとの反省や共通理解を図ることも改善が必要だった。	・主体的な活動についての共通理解を図る。 ・单元が終了した後に学習グループなどで反省を回覧するなど、授業評価を行う流れを整備する。
	各学部と連携を図りながら、系統性・一貫性を目指した年間指導計画の実践について検討を行う。	(2)	B	・各教科等係会で学習内容等の検証を行い、系統性について大まかに見直すことができた。校内研究について、進捗状況などの情報を伝達する機会が少なかった。	・年計の系統性について、次のステップとして各教科の具体的な内容で系統性を見直し、授業に生かす。 ・学部会等で校内研究について伝達し、指導の系統性・一貫性を深める。
児童生徒指導部	児童生徒が自ら考えて安全に行動する力を育むため、安全指導の充実を図る。	(1) (3)	A	・1,2学期共に各学部において交通安全教室を実施。児童生徒の実態に応じて学習することができ、安全を意識できるような指導を行うことができた。 ・高等部1課程1年生の生徒と役割を分担しながら、全3回の会の進行を行うことができた。また、芳賀郡内県立高の生徒と共に街頭啓発活動を行い、交通安全の大切さを訴えることができた。	・交通安全教室の開催の仕方を工夫し、より児童生徒が意識できるようにする。  ・春、秋、年末の交通安全総ぐるみ運動に合わせて、各学部で交通安全を意識できるような学習を実践する。  ・いじめ対策の周知について、学部・個別懇談等で説明・聞き取りなどを進める。
	児童生徒に安心安全な学校環境の整備をめざし、円滑なスクールバスの運行や登下校指導の充実を図る。	(3) (4)	B	・登下校のスクールバスや施設車両誘導などを中心に全職員で共通理解を図り、連携を密にとって安全に登下校ができるように実施することができた。 ・通学指導については、定期的に登下校指導(中・高等部)を実施し、問題の早期発見、対応を行うことができた。	・委託業者との連絡を密に取ったり、介護の職員への研修を規定通り行ったりしながら、協力して安全なバスの運行に努める。
進路指導部	小中高の連続性を踏まえた進路指導の取組を推進する。	(2) (5)	B	・職員の社会体験研修、福祉施設説明会、希望者進路指導研修等の機会を設けることができた。また、外部アンケート結果を学部会で連絡するなど、意識啓発に努めることもできた。	・全学部の教員が将来を見据えて指導に当たれるよう、夏季休業中の教員進路研修の機会を充実させる。そのために「施設見学」「福祉施設説明会」「社会体験研修」の3つについて、3年サイクルで1つずつ参加することを努力目標とする。
	児童生徒や保護者等の主体的な進路決定を支援するために、関係機関の協力を仰ぎながら進路相談機能を充実させる。	(1) (4)	B	・ホームページでは、行事報告だけでなく進路指導に関する現状や課題についての記事を掲載することができた。 ・個別の進路相談を充実させ、保護者対象で10件以上の相談を行った。また、高等部生徒との相談も随時行い、不安解消を図ることができた。	・小中学部の懇談記録には、進路に関する記載があまり見られなかった。これまでの「進路指導の手引き」について教員用のものを新たに作成し、懇談等で活用できる質問項目等を掲載することで、保護者と進路について話す際に手掛かりとなるよう工夫する。
相談支援部	早期教育相談担当者が共通理解を図りながら取り組めるよう資質の向上に努める。	(1)	B	・係内での研修に計画的に取り組み、早期教育相談にとって大切なことなどの共通理解を図ることができた。 ・幼児が興味を示した活動、好きな活動を通して関わる中で実態を把握するように努めたが幼児自らが考える場面はほとんど見られなかった。	・係内での研修を今後も継続し、相談時に必要な知識・情報が得られるようにしていく。 ・個別のケースに関する検討会などを工夫していく。
	本校の教育活動についての情報を関係機関等にわかりやすく伝えるように努める。	(4)	A	・就学相談、就学の流れを各担当者に伝えたが、その都度様々な確認が必要であった。 ・通学圏が広がったことにより、体験学習申込み締切日を過ぎてからの申込みがあったり、手続きが煩雑になったりした。	・係内で事前に共通理解を図って取り組んでいく。 ・市町教育委員会への学校見学会・体験学習についての情報提供、幼児児童生徒等の情報共有を継続していく。

学部・分掌部	評価項目(達成目標)	重点目標(努力点)	評価	考察	次年度への改善策
健康指導部	児童生徒が安全で安心に学べる環境を整える。また、保護者や関係機関との連携・協働を進め、児童生徒が自身の身体に関心を持ち、健康への理解と啓発を図る。	(1) (3) (4)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>県の指針により、コロナ対策の緩和による指導体制を実施した。日常生活の指導や学習活動等、共通理解を図りながら進め、保護者へは協力依頼を行い安全に取り組むことができた。</li> <li>プール指導については、水に対する危機意識をもち、安全面の徹底を図りながら実施できた。熱中症対策等により1学期のみの開放とした。</li> <li>性に関する指導や歯磨き指導など実施。自分自身の身体に興味関心を持つ児童生徒が増えた。また、肥満指導やアレルギー対策など担任と情報を共有しながら個々への対応の充実を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症では流行状況等を常に情報収集し、いつでも対応できるように備えておく。</li> <li>次年度の学校行事や指導体制等を適宜見直しながら進め、安全に学習できる環境整備を留意する。</li> <li>児童生徒の水の対する安全を意識し、共通理解を図りながら進める。</li> <li>関係者間と連携を図り、児童生徒が自身の身体に関心を抱けるよう配慮していく。</li> <li>関係者間と連携を図り、児童生徒が自身の身体に関心を抱けるよう配慮していく。更に<b>保護者対象給食試食会を開始し、食育推進</b>を図る。</li> </ul>
	避難訓練、引き渡し訓練等の各種訓練の実施、改善に取り組み、自分の命は自分で守るため、自ら考えて行動できる力を育むための防災安全教育の充実、実践を図る。	(1) (2) (3)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な状況を想定した避難訓練では、その都度職員間の共通理解を図りながら安全に取り組むことができた。引き渡し訓練では、職員同士の連携を図り、保護者の協力の元、安全に実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な状況に沿った避難訓練では、常に危機意識を持ちながら取り組むことが大切である。児童生徒には自分の命を守る行動が身に付くような指導を継続して行う。避難姿勢(シェイクアウト・だんごむしのポーズ)の定着を図る工夫をしていく。</li> </ul>
渉外部	保護者と連携を図り協力しながら、活動内容の検討や見直しをし、PTA活動の推進を図る。	(1) (4)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員会・理事会では、振り返りを行い保護者と意見を交換・共有しながら活動内容や実施方法等を見直し、次年度に向け検討を進めている。</li> <li>専門委員会や地区活動では、保護者と教員、保護者間で情報の交換や共有をし、状況を確認しながら活動内容等を工夫し活動を実施できた。</li> <li>地区活動を再開し、各地区で積極的に活動が行われ、保護者間で交流を図る機会につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して<b>PTA活動の内容等の見直しや工夫</b>に努めながら今後も活動の推進を図っていく。専門委員会の活動では、学校行事と合わせた活動において、次年度も引き続き活動内容や実施方法を検討しながら取り組んでいく。</li> </ul>
	各団体と連携を図りながら、活動の連絡・調整、情報の発信や啓発など、円滑な活動の推進に努める。	(4) (5)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体や各学校等と連携を図り活動の連絡や調整を行うことや、情報の発信等に努めることができた。研修等の案内等においては、期日が短いもの等もあり、余裕をもった回覧や発信が難しいことがあった。</li> <li>同窓生と親の会では、段階的に内容や規模を広げ行事等を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修案内等の発信方法や回覧方法を工夫していく。</li> <li>同窓生と親の会では、状況に合わせて継続して行事の内容や実施方法を検討していくとともに、役員会等で集まる機会に行事等についての打ち合わせの場を設定していく。</li> </ul>
特別活動部	児童生徒の主体的な活動の充実を図るため、安全で円滑な活動の計画や運営に努める。	(1) (3)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に留意し、円滑に活動を実施することができた。児童生徒の活躍の場を増やせた。</li> <li>異学年との交流や主体的な活動の充実では、学業指導の視点も取り入れて取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会等で高等部生がリードする場を設定し、他学年との関りを考えられるようにする。</li> <li>交流教育の場所や内容等の工夫を、交流校と相談しながら進める。</li> <li>安全に活動できるよう、マイタイムの回数や実施時期を見直す。</li> </ul>
	保護者や地域への情報発信を充実させられるよう、便りの内容の充実やHPの活用を努める。	(4)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPで行事の様子や、各種スポーツ大会の様子を掲載し、保護者や地域に啓発を促す取り組みができた。交流だよりや地域だよりを発行し、地域に啓発する取り組みをすることができた。</li> <li>保護者あて通知を精選し、行事の案内をすることができた。</li> <li>久しぶりに学校間交流やボランティアの受け入れをできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>運動会、まじこ祭を土曜日に実施し、交流校、同窓生、地域の方々も来校する機会となるよう計画する。</b></li> <li><b>行事や大会の様子だけでなく、普段の取り組みもホームページで紹介する。</b></li> </ul>